市民談話室

原稿募集　7月1日号の原稿を募集します。皆さんが日ごろ考えていることや身近な出来事など、気軽に投稿してください。字数は400字から500字程度とします。あて先は、〒950-12 白根市大字白根1235　白根市役所　企画調整課　広報広聴係（☎373-2111㈹333）です。

市内最初の認可保育施設
白根保育園改築について

森山孝子さん（魚町4・会社員・三十二歳）

新潟から嫁いで約十年になります。今までは正直言って、市政にはあまり関心がなかった私です。しかし、年長児になったわが家の一人息子が通う白根保育園の改築が、今年ようやく実現するとのことで、とてもうれしく思っています。

私の主人も同園に通いました。聞けば白根保育園は市内最初の認可保育施設として開設されたとのこと。四十年余りも経過しているので、老朽化が激しく、一日も早い改築が望まれてきました。このことは母の会の長年の悲願であり、今まで多くの皆さんが子供たちのために熱心に運動を進め、この日を待ち望んで頑張ってこられたことを考えますと、感慨もひとしおです。

それでも、今の園にも良いところはあります。木造で、床も木ですから、真冬でも子供たちが素足で元気に過ごせたことです。新しい園もぜひ、今までのように木の床をお願いします。また、現地改築で工程もかかり、大変だとは思いますが、できれば卒園式だけでも新しい園で迎えさせてもらえたらと、強く希望します。

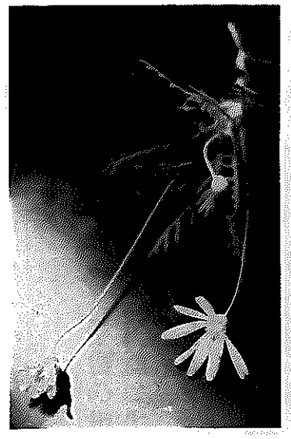
これを機に私も一市民としてもっと市政に関心を持ち、見守っていきたいと思います。

私の歩む道
一筆の中に心を込めて描く

小杉茂夫さん（横町乙・洋画家・七十歳）

桃やナシの花が咲くころになると、新飯田にも春がやってきます。いつも土手の砂利道を踏んで、スケッチブックを抱えて歩いたものです。今ではその土手も舗装に変わりました。絵を描き始めて、はや五十余年の歳月が過ぎてしまいました。最近では美術愛好家が描いたり、展覧会に足を運んで美術を鑑賞できる機会が多くなりました。大変素晴らしいことです。

しかし、現代美術は止まることなく、ますます不可解な作品が多く、見る人の心を戸惑わせます。好むと好まざるとにかかわらず、人は現代を呼吸し、現代に生きております。作家も鋭く現代を把握し、現代の美を創造しなければなりません。そしてそれを表現するのです。絵画の創造には、現代的な高い感性と知性、そして深い和が大切です。新しい世界の現代リズムの中に美をつくり上げることが、作家の使命なのです。そこに、それを鑑賞する人との間に、幾らかの隔たりができるのも当然と思います。



一筆の中に心を込めて描く。その描き込んだ魂が一体となって呼びかけ、訴えるのです。作家の情感が、見る人に感動をもたらすことができるならと、制作を続けるのです。孤独と沈黙は、やがて多くの枝に花を咲かせるに違いないと、信じております。

その美を理解しようとするあなたの心が、あなたを豊かにすることでしょう。

日本美術家連盟会員
新潟県美術家連盟名誉会員

市民文芸

川柳

ミス・コンに煙草を止めて応募する　中村　尚治
おでん鍋世界の事は遠く置く　西条　ムラ
善戦の甲斐なく次点の爪を噛む　早川　英男
どの顔も必死に生きる砂の城　山岡　フミ
末席の酒は二級の方がよい　米野　光雄
砂山に不倫の泪捨ててくる　吉川　彰
薫風を一人占めした鯉幟　荒木　イマ
キャンセルをしたいあの世の指定席　今井　七郎
あっさりと砂丘に捨てた片想い　織田　セツ
年金日粗大ゴミにも付く銚子　後藤マサノ
深爪を思わず切った物思い　佐藤トミノ
拘りを持ちます女の赤い爪　佐藤　ヨキ
倖せな爪です妻より先に逝く　高橋祐四雄
ペット猫爪研ぐ街を忘れてる　竹石　甚五
夜の蝶昼はせっせと爪磨く　田中　成子
十人十色個性を秘めた爪の相　田村　恒夫

俳句

つるされし折鶴蘭に春の風　山口　初野
黒々と乾きし若布求めけり　古川　綾
枝くばりしつつぶだうを剪定す　成沢　素明
縁側に植物図鑑春愉し　山田　孝
読み終へし詩集の余韻春灯　和泉　伸子
連なりし巣の賑やかに岩燕　小林　光子
稚児の列園児の列や花祭　小林　すみ
陽炎に揺るる心のありにけり　公条　雪夫
春眠し膝に伏せたる文庫本　堀内ナナ子
天をさす指より甘茶掛け申す　安沢　飛浪
寺は古い尼様は老い花祭　木村　トリ
亡き母と二人で眺めた夜の桜　玉木　長吉
（以上大風会）

短歌

老いしわれ余生達者に生きなむと
陽光浴びつ薬草をとる　小出よしの
早苗田の水面に反す陽の眩し
渡るる風も緑の香り　中村　京
湾岸の戦おはりてうかびくる
焼かれし東京の遠き思ひ出　根岸　貢郎

地域づくりの主役は住民自身
「投票率おこし」を

二見義隆さん（四ツ興野・会社員・五十二歳）

「豊かさ」とはゆとりの度合いである。しかしそれはお金、時間、住宅のスペース、あるいは仕事での心のゆとりなど、人それぞれに判断は異なると思う。

四月二十三日付けの読売新聞に全国の市の「住み良さ指数あれこれ」という調査が載っていた。各項目別ベスト10の市の中で、白根市は「住まいの広さ」という項目で十位であった。全国比較の中でベスト10に入ったということは大変喜ばしいことである。それは「豊かさ」への第一歩でもある。

だが、振り返って「いかに住むか」「自治意識」という、心の豊かさの面から見るとどうだろう。政治に対する関心度を、今年行われた統一地方選挙をはじめとする一連の投票率で比較すると、残念ながら毎回の低投票率で、県下のワーストの仲間入りをしている。地方自治法施行から四十四年が過ぎたが、低投票率では民意が反映されにくく、地方政治の活力をそぎ、低迷や衰退を招く。

住民の福利を満たし、活力あるまちづくりを進める上で、行政をチェックし、住民の声を行政に反映させる議会の役割は、ますます重要性を増している。向こう四年間の自分たちの暮らしをだれに託すか。その選択の機会を自ら放棄するような低投票率は「豊かで暮らしやすい地域づくり」の主役が住民自身であることを忘れていることになる。

地方自治の充実のためにも、投票率でも全国のベスト10に入るように「投票率おこし」を始めなければならないだろう。

平成白根市のシンボル
カルチャーセンター

笠井　勇さん（五六の町6・無職・八十三歳）

東にそびえる越後山脈、西は霊峰弥彦山、そして日本一長い信濃川、その支流中ノ口川に囲まれた白根市。四季折々立派なじゅうたんと変わる田園。その蒲原平野の中央に、昨年六月白根市制三十周年記念として完成し、雄大な姿を見せたのが平成白根市のシンボル、カルチャーセンターだと思います。

完成してから約一年がたちました。その間、多くの記念行事やスポーツ大会、さまざまな催しなどに幅広く活用され、市民にとって大きな喜びとなっています。

今後はさらに多くの市民から利用され、白根市発展とともに大きく羽ばたくカルチャーセンターを希望します。

16年ぶりの女性議員に期待
素晴らしい春に思う

吉田すみ子さん（下鷺ノ木2・会社員・四十四歳）

二十四の議席を目指して、早朝より夜半まで熱い戦いが繰り広げられた。一票一票の累積でそれぞれにふさわしい人が市民の心で選ばれた。今回は十六年ぶりに女性議員が登場。本当に喜ばしいことである。家庭に例えれば主婦は家族の健康管理者であり、台所の勝手頭である。市政においても細やかな気配りと優しさで、改善に力を注いでいただきたい。ますます重くのしかかる高齢者社会の問題、痴呆（ちほう）老人の在宅看護に疲れる家族の心など、いろんな観点から見、心で聴いてほしい。足を棒にして歩いてほしい。そんな思いで大郷の土手を車で走った。

桃色にかすむ桃畑、チューリップはレインボーゾーンのじゅうたん、麦は深緑のトランポリン、ナシ棚は白いハンモッグ、八重桜が濃いピンク色で飾る。こんな自然を独り占めしたぜいたくと満足感。自然は素晴らしい。春になれば花を咲かせ、人の心を和ませる。一時期でもこの巡りが狂えば、人間も普通ではいられないだろう。不思議ではないごく当然の転回に改めて不思議を思い、感謝し、いつまでも平和が続いてほしいと願う。